

A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っている事、負担に感じている事等を具体的に書いてください。

- ・一部の職員の強引さが、ご本人の拒否感を強めてしまうことが多く、入浴日には、非番でもご本人の相手をしに職場へ来てしまう。チームケアに程遠い他の職員にとっても、あまり快いことではないだろうと思うが、良い案が浮かばない。

また、自分が相手をして拒否されるとき、相手に対して腹立たしくなり、自分の介護技術や人間性に自信がなくなる。

【質問】

理念はありますか？またそれはみんなに浸透していますか？

【回答】

事業所に理念はありません。

【質問】

強引さの見られる職員に対して、あなたはどのような声かけをしていますか？
できればその理由も合わせて教えてください。

【回答】

あとで「Aさんどんな風に怒ってた？」「何で怒ったの？」くらいの質問をします。
どのように伝えても、その職員にとって不愉快な意見ととられそうで怖いので。

【質問】

自分が拒否されてしまうことは、どこに要因があると考えていますか？
自分の人間性や介護技術でしょうか？それとも認知症という疾患でしょうか？

【回答】

認知症という疾患のことは理解しているにもかかわらず、Aさん本人に腹を立てたり、他の職員の評価が気になる自分の人間性に自信が無くなることと、声のかけ方や話の聴き方がその時々によって違ってしまいが、意図があって変えているわけではなく、介護技術の不足を感じます。

B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・洗濯に出した衣類は必ずすぐに戻ってくると信用し、ご自分から、「この服は何日も着たから洗濯に出す。」と思ってほしい。
- ・「帰ります。」と言った時に、誰かから引きとめられたら、それを嬉しいことだとちょっとでも思ってほしい。

【質問】

洗濯に出した衣類が戻ってこないという猜疑心は、どこからくると考えていますか？
また、このような心理状況の方に対して、その認知を修正することが難しい場合、ほかにどのような対応方法が考えられますか？

【回答】

持ってきたはずの衣類が手元に無かったことがあり、周りの人達も色々なものが無くなっているといつも話している環境からくるのではと考えます。

清潔な衣類を身に付けるということだけを考えて、だまって少しずつ洗濯に出します。

【質問】

帰りたい時に、それを誰かに引き止められることはその方にとって良いことなのはどうしてですか？

【回答】

「帰りたい」場所の他に、今の居場所があって、そこに居る人たちに心配されたり必要とされたりしていると感じることは、Aさんにとって良いことだと思いました。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)

- ・相談しながら洗濯に出す衣類を選び、できるだけ早くご本人に返す。
帰るという気持ちになられている時は、帰れない理由を挙げるより、ここに居てほしいことを伝える...
というのを全職員がする。

【質問】

Aさんはどうして帰りたいと思いますか？

【回答】

帰る家がもう無い事、自分が認知症である事とそのために独居が困難な事について理解されていないので、自分の家ではないことから「帰る」と考えるのは、当たり前だと思いました。

C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・「明日帰るんですから、けっこうです。かまわないでください。」と険しい表情で敬語をつかう。
明日までには洗濯があがることや、今日風呂へ入っていったらどうかと聞くと、
- ・「妹に全部頼みましたからいいです。お世話になりました。ありがとうございます。」
よそよそしくお辞儀をしながら、後ずさりしてその場を離れようとする。

D 課題の背景や原因等の整理

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましよう。

- ・家族との死別、別居、トラブルなどでうつ状態になった過去。
- ・納得しないままの引越し。慣れない集団生活。いつのまにか他人が自分の荷物を管理している。
- ・物忘れがひどくなっていることへの不安、他、ご利用者のほとんどが認知症のすすんだ方で、その行為をかなり不愉快に感じている。また、直接嫌な思いやこわい思いをさせられることもある。職員は手のかかる他ご利用者に気を向けがち。

E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう

ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。

本人の言葉や様子から、本人が困って（悩んで）いること、求めていることは、どんな事だと思いますか？

- ・ここでの生活がいつまで続くのか誰も教えてくれない。
- ・ここにいる他の人達とは違って、自分はちゃんとした人物であることを判ってくれているのが不安。
- ・自分の物を他人が勝手に管理している。

F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつか書き出してみましょう。

- ・週に一度、自分がお金を出して、コインランドリーでたまった洗濯物を洗って乾かしてしまう。カンファレンスに参加していただく。

【質問】

あなたは、自分の施設のケアのあり方について、どのように評価していますか？また、それを向上させるために、あなたにはどのような役割があると感じていますか？

【回答】

認知症介護の経験や事例が豊富にありながら、職員がそれぞれ目の前で起きる認知症の症状の対応に振り回されているように感じます。

経験や勘として、個人の力量に片寄る介護技術を、ケアプランにひろって職場全体に提示できないかと考えています。

【全般的な質問】

事例検討に取り組んでいただきましたが、あなたの当初の思いと思考展開していただいた後では、どのようなことを新たに気づくことができましたか、また、何を再度確認することができましたか？

【回答】

ご本人の持っている能力や要望と、ご家族の思いや事情、自施設が提供できる環境それぞれが噛み合っていないことと一緒に、Aさんが認知症という疾患を抱えておられるということを再認識しました。それに対して、自分がしていること、すぐできそうなこと、できるかもしれないこと、をAさんの側から整理できたので、はがゆさといった感情的な思いが強かったケアの考え方に少し幅を持たせることができました。

(助言者の考察)

認知症の人の行動・心理症状は、まわりの人(職員や他の利用者など)に大きな影響を受けて現れることも少なくありません。建物の設備や装飾なども同様です。特に、生活の場としての環境を整えることはとても大切なことです。例えば、認知症の人が昔から行っていたことを、施設に入所しても継続してできるような配慮があると、生活に役割を持つことができ、自尊心が高められることでしょう。

この事例の場合には、施設の「ケア理念」が無いとのことですが、理念に基づいた方針が樹立されることで、目標が明確になり、職員個々の価値観の違いを認識し、共有されたケアによって、利用者は混乱することなく、安心した生活を送ることができます。この機会にみなさんで「理念」の構築に取り組まれてみてはいかがでしょうか。

また、事例提供者は、今回の事例検討によって、施設の教育・研修などの体制面だけではなく、事例提供者自身の感情的な思いが強かったケアの考え方を客観的に捉えることができたようです。ケアに対する熱心な姿勢が伺えます。今後は、今回の気づきを生かして、「それをチームでどのように共有し、実践するのか」ということを、理念の構築と併せて検討されることに期待したい事例です。